

授業科目名	保育内容総論	担当教員名	美越 芳枝
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分等	領域及び保育内容の指導法に関する科目-保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む） 総論 / 保育の内容・方法に関する科目
必修・選択/単位数	必修 / 1単位（15時間）	授業方法/担当形態	演習 / 単独
開講学年/学期	1年 後期（4期） / 年間開講数 2講座	特記事項	※実務経験のある教員等による授業 保育所所長、保育士として長年にわたる実務経験を活かして、具体的な実践記録を紹介して授業を行っている。
授業の概要及び全体目標	・保育の基本を踏まえた保育内容を展開するために、指導計画編成上の留意事項を把握しながら、乳幼児の生活する姿をどのように捉え、保育内容を如何に展開し、また環境を構成していくか等の具体的な事例を取り上げ、グループ討議や演習により、保育計画や保育の実践等の手順を習得していく。また、今後の保育内容のあり方や保育者のあり方を追及していく。		
到達目標	<p>(1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。</p> <p>①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>②当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>④領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2)保育内容の指導方法と保育の構想：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>①幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>②各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>③指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>⑤各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> <p>(3)保育総論</p> <p>①保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。</p> <p>②保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。</p> <p>③子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。</p> <p>④保育の多様な展開について具体的に理解する。</p>		
テキスト	<p>・「演習 保育内容総論」神田伸夫・高橋貴志編著（萌文書林）</p> <p>・「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」（株式会社チャイルド本社）</p> <p>・幼稚園教育指導資料集第4集「一人一人に応じる指導」（文部科学省）</p>		
参考書・参考資料等	<p>・「改定版 保育内容の基礎と演習」柴崎正行編著（わかば社）</p> <p>・「幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立」民秋言 編（萌文書林）</p> <p>・「養護と教育が一体となった保育の言語化」社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国保育士会発行</p> <p>・「ここがポイント！ 3 法令ガイドブック（平成29年告示対応）」無藤 隆、汐見稔幸、砂上史子 著（フレーベル館）</p> <p>・「育ての心 上・下」幼稚園真諦」倉橋惣三著（フレーベル館）</p> <p>・その他授業中適宜紹介する。</p>		
成績評価の方法	<p>・内容の理解度：理解度確認（小テストを含めたチェック）80%</p> <p>・学習への興味：関心・表現力等（レポート、指導案等も含む）10%</p> <p>・平常点（受講態度等）：10%</p>		
授業外（事前・事後）学習の方法、オフィスアワー等	<p>・「保育内容総論」が8回の授業で課題等を理解するためには、事前に次回学習予定の事項・内容を把握すること。</p> <p>・施設実習等において、授業等で学習したことを念頭に、理論と実際の比較や課題等を見出し出していく。</p> <p>・講義内容の質問や不明な点は、授業終了前に聞き取りをしたり、課題レポート提出の際に記載することにより解決を図る。</p>		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	<p>・オリエンテーション</p> <p>・現在の子育て支援「子ども・子育て支援新制度」について</p> <p>1.なぜ保育内容総論を学ぶのか</p>	(1)-(1),(2)-(1),(3)-(1)	
第2回	<p>2.保育内容の歴史の変遷</p> <p>①保育内容の変遷</p> <p>②保育所保育、幼稚園教育、幼保連携型認定こども園の教育及び保育</p>	(2)-(1),(2),(3),(3)-(1), ②	
第3回	<p>3.子どもの発達や生活に即した保育内容</p> <p>4.養護と教育の一体性とは…演習――発展演習</p> <p>1.ECECとしての保育</p> <p>2.保育所における養護と教育の一体性</p> <p>3.就学前保育施設における養護と教育の一体性</p>	(2) (3)-(2),③	
第4回	<p>5.子どもの生活と保育内容</p> <p>6.子どもの遊びと保育内容…演習――発展演習（グループ討議）</p>	(1),(2),(3)	
第5回	7.環境を通して行う保育	(1),(2),(3)	
第6回	<p>8.保育における「領域」①…保育の「ねらい」と「内容」</p> <p>9.保育における「領域」②…記録・計画・評価と領域の関係</p>	(1)-(1),(2),③	
第7回	<p>10.多様な保育の場における保育内容①②</p> <p>11.様々な配慮を要する子どもの保育</p> <p>12.現代社会の特質と保育内容…演習――発展演習（グループ討議）</p>	(3)-(4)	
第8回	<p>・DVD視聴 視聴をしておいた課題等をグループ討議・発表</p> <p>・まとめ 質疑応答</p>	(1),(2),(3)	